

10月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では間伐作業や保育作業が中心であったことや長雨等の悪天候により原木生産量は減少している。各共販所への入荷量は少なく、間伐材、小径材等が中心である。製材工場の原木在庫が減少したため、スギ、ヒノキとも引き合いは強く、価格は上昇傾向にある。特にヒノキ3m柱材、4m土台・中目材は品薄の影響と相まって急上昇している。

群馬県では原木供給は回復傾向にある。製品の荷動きが少し出始めており、製材工場では原木集荷が急務になっている。首都圏の製品市場からの受注は回復気味。多少仕事が出始めているが、例年の7割程度である。製材工場の製品在庫は依然として多い。貫、胴縁に荷動きが出てきたが、破風板、垂木、根太は悪い。

2. 米材

米国、カナダとも今年の山火事警戒(ファイアークロージャー)シーズンは9月で終了した。カナダBC州では8月の原木伐採量が山火事警戒の影響で前年同月比69%減となったが、需要の弱さから市況へのインパクトは限定であった。米国の原木港頭在庫は伐採制限が軽微であったため潤沢である。一方、カナダは極めて低水準ながら国内外の原木需要が少なく、混乱は見られない。米マツIS級並の10月積み対日輸出価格は現時点で未だ決まっていない。8月の米国新設住宅着工数は前月比11.6%減の128.3万戸となった。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(10/4)は\$422/M、9月頭に比べ1.9%の下落。カナダの山火事は続いているが、降雨予報が増えており沈静化に向かうものと予想される。産地の製材品価格は横ばいが続いている。

8月原木入荷は173千 m^3 、1~8月累計では1,273千 m^3 、前年同期比は22.6%減。出荷は175千 m^3 とほぼ入荷並み、1~8月累計は1,227千 m^3 となり前年同期比25.4%減。在庫は前月並みの214千 m^3 、在庫率は1.41ヵ月。東京木材埠頭の9月製品入荷は14千 m^3 (前月比7.7%減)、出荷は13千 m^3 (同9.2%増)、在庫は30千 m^3 (同4.2%増)。中国木材鹿島工場の火災による製材ライン停止で9月に販売先に対して受注制限が行われ、一部品目に動きが見られる。それに伴い、代替品となるヒノキ正角や小割にも動きが出ている。

3. 南洋材

サラワク州では例年通り9月には雨雲がスマトラより吹く風に乗って訪れ、降雨が増えたが依然乾期である。PNGでは天候が昨年同時期に比べ悪く、降雨が多い。主要市場である中国向けは大手バイヤーが定期的な船積みを行っているが、小手バイヤーの配船は止まっている。サバ州の天候は良好で出材も順調。10月予想の原木入荷0千 m^3 、出荷2千 m^3 、在庫7千 m^3 。製材品入荷は25千 m^3 。フリー板市場は依然悪く実需は低い。

4. 北洋材

欧州諸国のロシア材製品の輸入禁止、日本の需要減退、中国市場の不振等でシベリア産地の主力サプライヤーは厳しい状況が続いている。コスト面ではインフレにより採算面が悪化し体力勝負となっている。円安が収まらず、日本側からの希望価格は下がっているが、産地側では下げの余地はない状況で商売が成立していない。現地挽き野縁製品(30×40×4m)の不振が続いているが、良材の在庫は少しずつ減少しており、需給バランスが改善してきた。同(30×40×3m)は品薄感が出ており、栈木は完全に品不足になっている。

8月の製品入荷(東京+川崎)は10.8千 m^3 となった。7月は遅れていたコンテナが纏まって大量入荷となったが、正常な水準に戻った。出荷は12.6千 m^3 と低調な引き合いが続いている。在庫は前月に一時的に増加したが、42.8千 m^3 に減少。

5. 合板

合板メーカーの原木仕入価格は東日本、西日本ともに前月比横ばいを維持。米マツ丸太価格は合板メーカーの引き合いが鈍く、産地の売り気も低いため前月から横ばいだが、円安で輸入コストは上昇。

8月の国内合板生産量は21.3万 m^3 、うち針葉樹合板は21.0万 m^3 、出荷量は21.3万 m^3 で在庫量は15.6万 m^3 となり、うち構造用合板の在庫は13.3万 m^3 と前年に比べ高水準な状態が続いている。この夏の猛暑や職人不足等の影響により建築現場が遅れ、玉突き的に針葉樹合板の需要が一部で鈍化している見方もあるが、合板メーカーが減産体制を続ける中で需給の均衡を保っている。合板メーカーは既に電気代、人件費、運送費用等のコスト上昇を見込んでおり、値上げせざるを得ない局面であることを顧客に声明していくとの意向を示している。輸入合板は円安もあり最低限の発注に止まっている。構造用合板や塗装型枠合板等は不足感が和らぎ、全般的に需給は均衡している。8月の合板輸入量は前月比1.3万 m^3 増の16.3万 m^3 となり、インドネシア以外の主要国からの輸入量は増加。インドネシアでは日本や主要マーケットからの

引き合いが増え始め、受注量は一定量を維持している。日本向けは円安の影響もあり産地価格が上昇する気配は見られない。マレーシアでは日本からの発注量は落ちている。減産による生産コストの上昇や接着剤等の副資材の価格上昇で、シッパー側のコストは上がっているため、少しでも値戻ししたい意向に変化はない。

6. 構造用集成材

第2・四半期契約分のラミナが順調に入港。9月入荷は通常の7割程度になり適正在庫となった。第3・四半期契約価格は€280/m³、第4・四半期契約は€10アップの€290/m³。為替は円安傾向であり、輸入コストは上昇している。9月時点のラミナ入港価格は47,000円/m³程度。米マツ製品の受注制限、輸入集成材の入港量の減少を考えると、各プレカット工場は集成材の在庫を持つ動きに切り替わることが予想され、国内集成材メーカーの受注は上向くと見られるが、人員不足のため大きな増産はできない模様。

7. 木材チップ(東海)

原木は製紙・バイオマス発電用とも小径材の引合は強いが全体では低調。C材は高止まりで推移している。燃料材は解体物件の減少、作業員不足により入荷量は減少。燃料用の消費は底固く、各社は集荷量維持に腐心している。一部大手製紙会社では減産・操短に入っている工場もあり製紙用チップの消費量は減少。バイオマス発電の燃料用チップの消費は旺盛で生産量は高水準を維持している。

8. 市売問屋

都内の材木店は仕事が少ないのか、当用買いに徹している。これから買い込むという雰囲気はないため、構造材、造作材とも荷動きは良くない。10月は天候も良くなるので、仕事が出てくることを期待したい。中国木材の火災の影響が出始めており、栈木等に引き合いがあり、ヒノキ角が値上がり気味である。

9. 小売

町場の工務店では新築工事の仕事が若干出ており、上半期に比べ仕事量は増えてきている。スギ、ヒノキ構造材は荷動きが鈍いままで価格は保合。一部製材工場では秋以降に原木の調達を危惧する声も聞かれる。外材製品では米加材の流通量が減少している。WW集成管柱は内外産の双方で不足感が出てきたものの、価格は上がっていない。今後は米マツ平角の流通量の減少によりRW集成平角に需要が移る可能性が強い。造作材ではスプルー、米ツガの引き合いは非住宅が主体で、木建ルートの引き合いは造作、建具ともに鈍い。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和5年10月16日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	↘	↘	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	輸出禁止	*	*
	製材品	→	→	→
南洋材	丸太	↘	↘	→
	製材品	→		

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記の様に示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	↗	↘	↗

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	↗
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	↑
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	↑
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	↗
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	↗			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	↗			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
		米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16" 13'	→	
		米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	→	
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
		メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→	
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
東京・問屋店頭 渡し価格		同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗	
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	→
			アカマツ (KD) 16×40上級	→
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 3.0×10.5×3m S4S FOHC	↗
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↗
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↘